

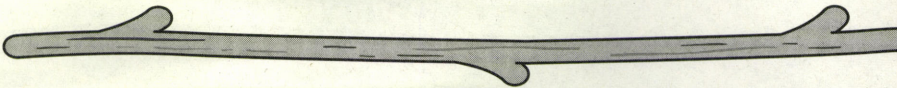
新年度、子どもを迎える園庭環境

前原 寛

四月。新年度の始まりです。保育園の様相も大きく変わります。五歳児が卒業し、新入園児を迎えます。

この時に、私のかかわっている保育園では、園庭環境を大きく変えます。三月に比べると、四月は子どもの年齢が一つ小さくなり、そこに新しい子どもたちが加わります。新入園児はもとより、在園児も保育室やクラス担任が変わり、それまでより少し不安定になる子も見受けられます。子ども一人ひとりが自分の居場所を見出し、落ち着いて過ごせるように、保育者は心掛けます。

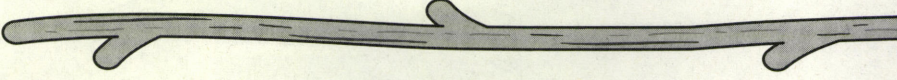
同時に、保育環境も、それにふさわしいものに変わります。壁面装飾など保育室の環境が大きく変わるのは当然ですが、当園では、室内にとどまらず、園




庭環境も変化します。具体的に言うと、大型遊具などの配置を変えることによって、新年度にふさわしい環境を構成するのです。

自分たちは、ずっと以前より大型遊具の移動を行っているのですが、そのことを他園の保育者に話すと、「固定遊具を動かすんですか！」と驚かれます。そう言えば、動かないから固定遊具と呼ばれているわけです。園庭の大型遊具は、いったん配置したら動かさないものだと思います。園庭の大型遊具は、私たちにとっては、園庭の大型遊具は、大型ではあっても固定という認識はありません。必要に応じて移動させるものです。

もちろん、すべての大型遊具が移動式ではありません。たとえば、ぶらんこ、登り棒などは、しっかりと地面に固定されています。そうでなければ危険でしょう。しかし、ジャングルジム、滑り台、鉄棒などは、移動可能です。時期によって園庭での配置が変わります。もちろん危険性がないことを確認した上でのごことです。たとえば、ジャングルジムの大人の力で揺らして倒そうとしてもとても倒せるものではありません。購入する時に実際にやってみました。相撲取りなら倒せるかもしれませんが、それは倒そうとした時の話です。子ども達の通常の活動では、どのようにしても倒れるものではありません。従って、ジャングルジムの固定する必然性はありません。



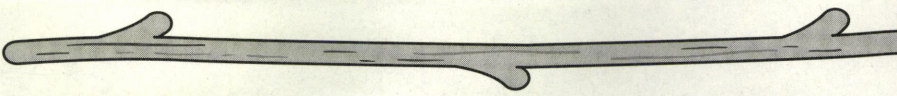


このように、当園では園庭の大型遊具を購入する時（何年に一回しかありませんが）、危険性について充分配慮します。そのかわり、園庭の置き場所に關しては、本当の固定遊具を除いては、さほどこだわりません。置き場所が悪かったとしても、移動させれば済むからです。

こう書くと、当園の保育者は力自慢ばかりのような印象を与えるかもしれませんが、そんなことはありません。大型遊具といえど、最大でも女性の保育者十人程度で移動させることができます。ジャングルジムなどは、最も持ち運びしやすく、五、六人で充分です。

大型遊具を移動させるのは、園庭の環境を「構成―再構成」の視点から考えているからです。子どもの発達する姿は、年間を通じて大きく変わります。それに応じて環境は再構成されていきます。実際、保育室の環境が年間を通じて同じ状態ということは、まずないと思います。それと同様に、園庭の環境も変化させていくのです。季節の移ろいと共に自然の姿は変わっていくのに、園庭の遊具の配置は何年たっても同じまま、というのはおかしくないでしょうか。

また、大型遊具はどうしても場所を取るのです、移動させないという前提に立つと、園庭の周辺に配置される傾向にあります。逆に、園庭の中央部分に固定された場合は、年間を通じて、広いスペースを確保できないこととなります。



このような問題は、遊具の移動によって容易に解決できます。

かといって、大型遊具の移動を頻繁に行うわけではありません。日替わりとか週替わりでもなく、年に数回程度です。言い換えれば、当園の園庭は、年に数種類の表情をもっているということです。

その一つが、新年度です。

園庭は、三月までは子どもの活動が活発になされるように、広い空間が求められますので、遊具は控えめな位置に置かれています。四月は、新入園児の園生活の始まりであると同時に、在園児もクラス替えなどによって少し落ち着かない様子が見られます。そんな時期に、ただ広い空間は子どもの情緒を不安定にさせかねません。むしろ、子どもにとってかわりやすい大型遊具を園庭の中央に移動させることにより、空間の広がりをおさめにし、子どもの活動を生み出しやすくしていきます。あまり空間を狭くし遊具を際立たせると、子どもに圧迫感を与えかねませんので、適度な広がりを保ちながら、しかし、子どもがすぐにかかわれるように配置していきます。

そうして、四月、保育者も保育室も、そして園庭も、子どもたちを迎え入れる環境としての役割を果たしていくのです。

(鹿児島国際大学准教授・元安良保育園園長)